

教科	国語	科目（単位数）	論理国語（3）	学年	3	類型	文系クラス
学習目標	(1) 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら内容や書き手の意図を解釈する力をつける。・・・(知識及び技能) (2) 論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、また、古典作品から読み取れる先人のものの見方、感じ方、考え方に触れる中で、自分の思いや考えを広げ、伝え合う力を高める。・・・(思考力、判断力、表現力) (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。・・・(学びに向かう力、人間性等)						
評価基準	知識・技能	考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割					
	思考・判断・表現	考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割					
	主体的に学習に向かう態度	プリント・課題・授業等への取り組み状況 2割～3割					
期間	単元（学習内容）			学習の到達目標			
～一学期中間考査	評論『『である』ことと『する』こと』 (丸山真男)	(知) 各段落の要旨を踏まえ、「民主主義」についての筆者の考えを適切に説明できている。 (思) 筆者の「民主主義」に対する考えと、自分の日常生活の事柄を関連付けながら、自分の考えを述べる事ができている。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組む。					
中間～期末考査	評論 「『いき』の美学」 (尼ヶ崎彬)	(知) 具体例の表す内容を的確に読み取ることができる。選んだ具体例の共通点と相違点についての確に説明できる。 (思) 筆者の論旨を正確に理解し、それを踏まえた分析ができる。選んだ具体例の共通点と相違点についての確に説明できる。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組む。					
	評論 「環境と心の問題」 (河野哲也)	(知) 「物心二元論」について、その起源や考え方を調べ、わかりやすく説明することができる。 (思) 自分で調べた内容を踏まえ、「物心二元論」の功罪について、現代社会の具体的事例を挙げながら説明できている。 (学) 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。					
～二学期中間考査	言語活動 『人と共にある図書館の未来は明るい』『図書館と「ものがたり』』	(知) 二つの文章それぞれの主張とその根拠を読み取ったうえで、共通点と相違点を明らかにできている。 (思) 図書館のあり方について二つの文章の主張を理解し、整理した上で、自分の立場を明確にして、根拠とともに意見を述べる事ができている。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組んでいる。					
	評論 「顔の所有」 (鷲田清一)	(知) 抽象的な表現を、本文の内容に沿って具体的に説明することができる。 (思) 「顔は誰のものか？」という問いについての筆者の考えを本文の展開に沿って的確にとらえ、「顔に所有される」ことの意味をわかりやすく説明できている。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組んでいる。					
二学期中間～期末考査	評論 「メディアのテロル」 (山田登世子)	(知) 本文の内容を踏まえて「メディアのテロル」の内容をわかりやすく説明することができる。 (思) 各メディアの利点・欠点を比較したうえで、「メディアのテロル」を実感したものとして適切な具体例を挙げ、メディアを利用する際の注意点について、本文の内容と関連付けながら自分の考えを深める事ができている。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組んでいる。					
期末考査後	小説 「檸檬」 (梶井基次郎)	(知) レトリックや構成に着目し、フィクションとしての小説表現の豊かさや可能性を知ることができる。 (思) 主題の把握を通じて物事の多面的な価値を考えることができる。 (学) 小説を精読することで読解力を深め、小説に対する関心を高めることができる。					
使用教材（教科書・副教材）	教科書：「論理国語」（数研出版） 副教材：「名作を味わう定番小説選」（数研出版）「読解評論文キーワード 改訂版頻出270語&テーマ理解&読解演習540題」（筑摩書房）「大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000」（尚文出版）「新訂総合国語便覧」（第一学習社）「グラusstep現代文3」（尚文出版）						
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。 (予習で、本文を読み、わからない言葉を辞書で引いてくる。授業で内容を深く読解し書き手の意図を考える)						
評価方法	(知) 考査・課題・プリント (思) 考査・ノート・プリント・課題等 (学) ノート・プリント・課題や授業への取り組み状況等						

令和7年度（2025年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	国語	科目(単位数)	論理国語(2)	学年	3	類型	理系クラス
学習目標	(1) 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら内容や書き手の意図を解釈する力をつける。・・・(知識及び技能) (2) 論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、また、古典作品から読み取れる先人のものの見方、感じ方、考え方に触れる中で、自分の思いや考えを広げ、伝え合う力を高める。・・・(思考力、判断力、表現力) (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。・・・(学びに向かう力、人間性等)						
評価基準	知識・技能	考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割					
	思考・判断・表現	考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割					
	主体的に学習に向かう態度	プリント・課題・授業等への取り組み状況 2割～3割					
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標					
～一学期中間考査	評論『『である』ことと『する』こと』 (丸山真男)	(知) 各段落の要旨を踏まえ、「民主主義」についての筆者の考えを適切に説明できている。 (思) 筆者の「民主主義」に対する考えと、自分の日常生活の事柄を関連付けながら、自分の考えを述べている。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組む。					
中間～期末考査	評論 「『いき』の美学」 (尼ヶ崎彬)	(知) 具体例の表す内容を的確に読み取ることができる。選んだ具体例の共通点と相違点についての確に説明できる。 (思) 筆者の論旨を正確に理解し、それを踏まえた分析ができる。選んだ具体例の共通点と相違点についての確に説明できる。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組む。					
	評論 「環境と心の問題」 (河野哲也)	(知) 「物心二元論」について、その起源や考え方を調べ、わかりやすく説明することができる。 (思) 自分で調べた内容を踏まえ、「物心二元論」の功罪について、現代社会の具体的事例を挙げながら説明できている。 (学) 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。					
～二学期中間考査	言語活動 『人と共にある図書館の未来は明るい』『図書館と「ものがたり」』	(知) 二つの文章それぞれの主張とその根拠を読み取ったうえで、共通点と相違点を明らかにできている。 (思) 図書館のあり方について二つの文章の主張を理解し、整理した上で、自分の立場を明確にして、根拠とともに意見を述べている。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組んでいる。					
	評論 「顔の所有」 (鷲田清一)	(知) 抽象的な表現を、本文の内容に沿って具体的に説明することができる。 (思) 「顔は誰のものか？」という問いについての筆者の考えを本文の展開に沿って的確にとらえ、「顔に所有される」ことの意味をわかりやすく説明できている。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組んでいる。					
二学期中間～期末考査	評論 「メディアのテロル」 (山田登世子)	(知) 本文の内容を踏まえて「メディアのテロル」の内容をわかりやすく説明することができる。 (思) 各メディアの利点・欠点を比較したうえで、「メディアのテロル」を実感したものとして適切な具体例を挙げ、メディアを利用する際の注意点について、本文の内容と関連付けながら自分の考えを深めることができる。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組んでいる。					
期末考査後	小説 「檸檬」 (梶井基次郎)	(知) レトリックや構成に着目し、フィクションとしての小説表現の豊かさや可能性を知ることができる。 (思) 主題の把握を通じて物事の多面的な価値を考えることができる。 (学) 小説を精読することで読解力を深め、小説に対する関心を高めることができる。					
使用教材(教科書・副教材)	教科書：『論理国語』（数研出版） 副教材：『名作を味わう定番小説選』（数研出版）『読解評論文キーワード 改訂版頻出270語&テーマ理解&読解演習540題』（筑摩書房）『大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000』（尚文出版）『新訂総合国語便覧』（第一学習社）『グランステップ現代文3』（尚文出版）						
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。 (予習で、本文を読み、わからない言葉を辞書で引いてくる。授業で内容を深く読解し書き手の意図を考える)						
評価方法	(知) 考査・課題・プリント (思) 考査・ノート・プリント・課題等 (学) ノート・プリント・課題や授業への取り組み状況等						

教科	国語	科目（単位数）	古典探究(3)	学年	3	類型	文系
学習目標	(1) 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら内容や書き手の意図を解釈する力をつける。・・・(知識及び技能) (2) 論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、また、古典作品から読み取れる先人のものの見方、感じ方、考え方に触れる中で、自分の思いや考えを広げ、伝え合う力を高める。・・・(思考力、判断力、表現力) (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。・・・(学びに向かう力、人間性等)						
評価基準	知識・技能	考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割					
	思考・判断・表現	考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割					
	主体的に学習に向かう態度	プリント・課題・授業等への取り組み状況 2割～3割					
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標					
年度初～ 1学期 中間考査	古文編 うつろひたる菊 (蜻蛉日記)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 本文の展開を的確に整理し、作者の心情について和歌解釈を通して具体的に説明できている。 (学) 自ら進んで粘り強く根拠立てて内容や和歌を解釈し、話し合いに取り組んでいる。					
	漢文編 売鬼（搜神記）	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 宋定伯の知恵が読み取れる言動を適確に説明できている。 (学) 主体性をもって粘り強く課題に取り組んでいる。					
1学期中間～ 期末考査	古文編 薫る香に（和泉式部日記）	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 作者の心情について本文をもとに的確にとらえ、贈答歌から作者と帥宮のやりとりの内容を具体的に説明できている。 (学) 自ら進んで粘り強く根拠立てて内容や和歌の説明に取り組んでいる。					
	漢文編 荊軻「風蕭蕭として易水寒し」 「図窮まりて匕首見る」(史記)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 秦王が荊軻の最初の一撃を免れた後、依然として危険な状態におかれた理由を適確に説明できている。 (学) 主体性をもって粘り強く課題に取り組んでいる。					
2学期初～ 2学期 中間考査	古文編 須磨 (源氏物語)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 漢詩の引用を丁寧に考察することにより、『源氏物語』の解釈を十分に深めることができている。 (学) 自ら進んで粘り強く根拠立てて調べ学習に取り組んでいる。					
	古文編 清少納言と紫式部 (無名草子)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 本文の展開を的確に整理し、描かれている清少納言と紫式部の人物像をわかりやすく説明できている。 (学) 主体性をもって粘り強く課題に取り組んでいる。					
	漢文編 「石壕吏」 杜甫	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 漢詩の社会的・文化的背景について、適確に分析できる。 (学) 主体性をもって粘り強く課題に取り組んでいる。					
2学期中間～ 期末考査	古文編 行く春を・岩鼻や (去来抄)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 本文の内容を正確に踏まえて、「行く春を…」「岩鼻や…」句の解釈を整理し、わかりやすく説明できている。 (学) 自ら進んで根拠立てながら粘り強く句意の考察に取り組んでいる。					
	漢文編 「漁父の辞」 屈原	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 屈原と漁父との問答に見られるそれぞれの考え方の違いについて、適確に説明できている。 (学) 主体性をもって粘り強く課題に取り組んでいる。					
	古文編 師の説になづまざること (玉勝間)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 本文の展開を的確に整理し、筆者の主張について具体的に説明できている。 (学) 自ら進んで根拠立てながら粘り強く本文内容の説明に取り組んでいる。					
使用教材(教科書・副教材)	教科書：「古典探究」(数研出版)、副教材：「読解を大切にする体系古典文法九訂版」(数研出版)、「漢文必携」(数研出版)、「新訂総合国語便覧」(第一学習社)、「Key&Point古文単語300+30」(いっずな書店)、「新訂版力をつける古典ステップ3」(数研出版)						
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。 (予習で、古文単語を辞書で引き、現代語訳をしてくる。授業で古典文法、漢文句法、現代語訳の仕方等を理解し、覚える。)						
評価方法	(知) 考査・プリント・課題等 (思) 考査・プリント・課題等 (学) プリント・課題や授業への取り組み状況等						

教科	国語	科目(単位数)	古典探究(2)	学年	3	類型	理系
学習目標	(1) 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら内容や書き手の意図を解釈する力をつける。・・・(知識及び技能) (2) 論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、また、古典作品から読み取れる先人のものの見方、感じ方、考え方に触れる中で、自分の思いや考えを広げ、伝え合う力を高める。・・・(思考力、判断力、表現力) (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。・・・(学びに向かう力、人間性等)						
評価基準	知識・技能	考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割					
	思考・判断・表現	考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割					
	主体的に学習に向かう態度	プリント・課題・授業等への取り組み状況 2割～3割					
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標					
年度初～ 1学期 中間考査	古文編 うつろひたる菊 (蜻蛉日記)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 本文の展開を的確に整理し、作者の心情について和歌解釈を通して具体的に説明できている。 (学) 自ら進んで粘り強く根拠立てて内容や和歌を解釈し、話し合いに取り組んでいる。					
	漢文編 売鬼(搜神記)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 宋定伯の知恵が読み取れる言動を適確に説明できている。 (学) 主体性をもって粘り強く課題に取り組んでいる。					
1学期中間～ 期末考査	古文編 薫る香に(和泉式部日記)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 作者の心情について本文をもとに的確にとらえ、贈答歌から作者と帥宮のやりとりの内容を具体的に説明できている。 (学) 自ら進んで粘り強く根拠立てて内容や和歌の説明に取り組んでいる。					
	漢文編 荊軻「風蕭蕭として易水寒し」 「図窮まりて匕首見る」(史記)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 秦王が荊軻の最初の一撃を免れた後、依然として危険な状態におかれた理由を適確に説明できている。 (学) 主体性をもって粘り強く課題に取り組んでいる。					
2学期初～ 2学期 中間考査	古文編 須磨 (源氏物語)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 漢詩の引用を丁寧に考察することにより、『源氏物語』の解釈を十分に深めることができている。 (学) 自ら進んで粘り強く根拠立てて調べ学習に取り組んでいる。					
	古文編 清少納言と紫式部 (無名草子)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 本文の展開を的確に整理し、描かれている清少納言と紫式部の人物像をわかりやすく説明できている。 (学) 主体性をもって粘り強く課題に取り組んでいる。					
	漢文編 「石壕吏」 杜甫	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 漢詩の社会的・文化的背景について、適確に分析できる。 (学) 主体性をもって粘り強く課題に取り組んでいる。					
2学期中間～ 期末考査	古文編 行く春を・岩鼻や (去來抄)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 本文の内容を正確に踏まえて、「行く春を…」「岩鼻や…」句の解釈を整理し、わかりやすく説明できている。 (学) 自ら進んで根拠立てながら粘り強く句意の考察に取り組んでいる。					
	漢文編 「漁父の辞」 屈原	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 屈原と漁父との問答に見られるそれぞれの考え方の違いについて、適確に説明できている。 (学) 主体性をもって粘り強く課題に取り組んでいる。					
	古文編 師の説になづまざること (玉勝間)	(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、現代語訳ができる。 (思) 本文の展開を的確に整理し、筆者の主張について具体的に説明できている。 (学) 自ら進んで根拠立てながら粘り強く本文内容の説明に取り組んでいる。					
使用教材(教科書・副教材)	教科書：「古典探究」(数研出版)、副教材：「読解を大切にする体系古典文法九訂版」(数研出版)、「漢文必携」(数研出版)、「新訂総合国語便覧」(第一学習社)、「Key&Point古文単語300+30」(いっずな書店)、「新訂版力をつける古典ステップ3」(数研出版)						
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。 (予習で、古文単語を辞書で引き、現代語訳をしてくる。授業で古典文法、漢文句法、現代語訳の仕方等を理解し、覚える。)						
評価方法	(知) 考査・プリント・課題等 (思) 考査・プリント・課題等 (学) プリント・課題や授業への取り組み状況等						

令和7年度（2025年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	地理歴史	科目（単位数）	地理探究（4）	学年	3	類型	文理共通
学習目標	「地理総合」で学んだ地理における知識・技能を土台にし、現代世界のさまざまな課題や動向について思考力を高め、的確に判断し表現する能力を身に付ける。さらにその能力を日本を含めた現代世界の課題解決に主体的に取り組み、積極的に参加しようとする態度を身に付ける。						
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標				自己評価	
年度初～ 1学期 中間考査	○資源と産業 ・農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の諸地域および日本国内における農林水産業の現状と問題点を把握する。</li> <li>世界の諸地域の農林水産業やその移動について地理的相関関係を学習する。</li> </ul>				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期中間～ 期末考査	○資源と産業 ・資源・エネルギー ・工業 ・第3次産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の諸地域および日本国内における食料問題を理解し、その解決に向けた思考力を養う。</li> <li>世界の諸地域および日本国内におけるエネルギー・鉱産資源および工業の現状と問題点を把握し、その解決に向けた思考力を養う。</li> </ul>				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期期末～ 2学期 中間考査	○人・モノ・金のつながり ・交通・通信 ・貿易・観光 ○人口、村落・都市 ・人口 ・村落と都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通・通信に関わる諸事象の規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。</li> <li>統計や資料等から、人口問題、居住・都市問題の現代の状況を把握し、位置関係によりそれが相互に関連し、地域によって問題点が異なることを理解する。</li> </ul>				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期中間～ 期末考査	○文化と国家 ○現代世界の地誌的考察 ・東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアと中央アジア・北アフリカとサハラ以南のアフリカ・ヨーロッパ・ロシア・アングロアメリカ・ラテンアメリカ・オセアニア	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活文化と言語・宗教に関わる諸現象、民族問題の原因や要因・解決に向けた取組について理解する。</li> <li>世界の諸地域の自然と産業を踏まえ、生活と文化を理解し地域性を理解する。</li> <li>日本との関わりや諸地域の問題点を学習する。</li> </ul>				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期期末～ 年度末	○現代世界におけるこれからの日本の国土像 ・現代日本に求められる国土像	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害に強い国土、変化する産業と持続可能な成長、人口減少社会の活性化、多文化共生社会の実現に関して、日本が抱える課題を理解し、その課題を多面的・多角的に考察、探究する。</li> <li>学習をふまえ、日本の将来の国土増を展望する。</li> </ul>				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
使用教材 (教科書・副教材)	地理探究（二宮書店）、詳解現代地図（二宮書店） 新詳地理資料COMPLETE2024（帝国書院）、データブックオブ・ザ・ワールド2025年版（二宮書店）、サクシード地理（啓隆社）						
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書内容（言語や歴史、現代社会の状況等）の把握</li> <li>地図帳での位置や統計の確認</li> <li>統計表等、資料による理解</li> </ul>						
評価方法	定期考査成績7割（中間・期末等） 平常点3割（週1回程度の小テスト（Google forms）、提出物、ワークシート、授業活動への取り組み等）						

教科	地理歴史	科目（単位数）	日本史探究（4）	学年	3	類型	文理共通
学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
評価基準	知識・技能	考查7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）					
	思考・判断・表現	考查7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）					
	主体的に学習に向かう態度	考查7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）					
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標					
1学期	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	<p>（知）旧石器時代から古墳時代へと至るまでの、黎明期における日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。</p> <p>（思）黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。</p> <p>（学）黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について深く理解し、多面的・多角的に考察することを通じて、原始社会の特色を主体的に探究しようとする態度を養っている。</p>					
	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	<p>（知）律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。また、貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解している。</p> <p>（思）中国・朝鮮半島との関係に着目して、古代の国家の形成の過程を多面的に考察し、諸事象の解釈等を根拠を示して表現している。また、東アジアとの関係の変化などに着目して、古代の国家・社会の変容を多面的に考察し、諸事象の解釈等を根拠を示して表現している。</p> <p>（学）古代の日本における国家や社会、文化の形成及びそれらの変容について深く理解し、多面的・多角的に考察することを通じて、国家や社会、文化の特色を主体的に探究しようとする態度を養っている。</p>					
	第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	<p>（知）貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。また、武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。</p> <p>（思）権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的に考察し、表現している。また、公武関係の変化、宋・元との交流などに着目して中世の国家・社会の展開を多面的に考察し、諸事象の解釈等を根拠を示して表現している。</p> <p>（学）古代から中世への転換期の日本における国家や社会、文化の変容について深く理解し、多面的・多角的に考察することを通じて、国家や社会、文化の特色を主体的に探究しようとする態度を養っている。</p>					
2学期	第7章 武家社会の成長 第8章 近世の幕開け	<p>（知）武家政権の変容、日明貿易の展開と、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解している。また、織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解している。</p> <p>（思）社会や経済の変化、東アジアの国際情勢の変化、地域の多様性を多面的に考察し、表現している。また、村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的に考察し、表現している。</p> <p>（学）中世及び中世から近世への転換期の日本における国家や社会、文化の変容について深く理解し、多面的・多角的に考察することを通じて、国家や社会、文化の特色を主体的に探究しようとする態度を養っている。</p>					
	第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺	<p>（知）支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係などを基に、幕藩体制の確立や近世の社会と文化の特色を理解している。また、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺、学問の展開などを基に、幕藩体制の変容、庶民の生活の特色、近代化の基盤の形成を理解している。</p> <p>（思）織豊政権との類似と相違、交通・流通・都市の発達などに着目して、幕藩体制の展開を多面的に考察し、表現している。また、社会・経済の仕組みの変化、幕府の政策の変化、国際情勢の変化などに着目して、幕藩体制の変容を多面的に考察し、表現している。</p> <p>（学）近世の日本における国家や社会、文化の変容について深く理解し、多面的・多角的に考察することを通じて、国家や社会、文化の特色を主体的に探究しようとする態度を養っている。</p>					
	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	<p>（知）対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の転換を理解している。また、明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定など、近代国家の成立について理解している。</p> <p>（思）欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的に考察し、表現している。また、アジアや欧米諸国との関係などに着目して、近代の政治の展開を多面的に考察し、表現している。</p> <p>（学）近世から近代への転換期及び近代国家の確立期の日本における国家や社会、文化の変容について深く理解し、多面的・多角的に考察することを通じて、国家や社会、文化の特色を主体的に探究しようとする態度を養っている。</p>					
3学期	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活	<p>（知）日清・日露戦争、第一次世界大戦、政党政治などを基に、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。また、文明開化、産業革命、交通の整備、社会問題の発生などを基に、産業の発展の経緯と近代の文化の特色、大衆社会の形成を理解している。</p> <p>（思）アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化などに着目して、近代の政治の展開、対外政策などを多面的に考察し、表現している。また、欧米の思想・文化の影響、産業の発達などに着目して、工業化の進展、近代文化の形成を多面的に考察し、表現している。</p> <p>（学）明治・大正期の日本における国家や社会、文化の変容について深く理解し、多面的・多角的に考察することを通じて、国家や社会、文化の特色を主体的に探究しようとする態度を養っている。</p>					
	第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 占領下の日本	<p>（知）恐慌、軍部の台頭、第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。また、占領政策、日本国憲法の成立、平和条約と独立の回復などを基に、我が国の再出発を理解している。</p> <p>（思）国際社会との関係、政治・経済の変化、戦争の推移などに着目して、第二次世界大戦と日本の関わりを多面的に考察し、表現している。また、第二次世界大戦前後の政治や社会、国民生活の変化などに着目して、戦後の国家・社会の変容を多面的に考察し、表現している。</p> <p>（学）第二次世界大戦前後の日本における国家や社会、文化の変容について深く理解し、多面的・多角的に考察することを通じて、国家や社会、文化の特色を主体的に探究しようとする態度を養っている。</p>					
	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	<p>（知）高度経済成長、社会・経済・情報の国際化などを基に、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解している。</p> <p>（思）グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割を多面的に考察し、表現している。</p> <p>（学）現代の日本における国家や社会、文化の変容について深く理解し、多面的・多角的に考察することを通じて、国家や社会、文化の特色を主体的に探究しようとする態度を養っている。</p>					
使用教材 (教科書・副教材)	教科書『詳説日本史 日本史探究』（山川出版社） 副教材『新詳日本史』（浜島書店）、『日本史用語集』（山川出版社）、『日本史重要語句 Check List』（啓隆社）						
学習方法	①用語集や問題集を活用し、重要歴史用語を把握し、内容を理解する。 ②基本的な知識を関連づけて、「歴史の流れ」や「時代の枠組み」を理解する。 ③図説の図版や史料、地図等を活用し、歴史を多角的に考察する。						
評価方法	<p>（知） 考查7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）</p> <p>（思） 考查7割～8割・平常点3割～2割（提出物等）</p> <p>（学） 考查7割～8割・平常点3割～2割（提出物等）</p>						

教科	地理歴史	科目（単位数）	世界史探究（4）	学年	3	類型	文理共通
学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
評価基準	知識・技能	考查7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）					
	思考・判断・表現	考查7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）					
	主体的に学習に向かう態度	考查7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）					
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標					
1学期	第1章 文明の成立と古代文明の特質 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	<p>（知）古代文明および東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義を理解している。</p> <p>（思）古代文明および東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>（学）古代文明および東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互の関わりに関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>					
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	<p>（知）南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、宗教や文化の特色、周辺諸地域との関係などを理解している。</p> <p>（思）南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、表現している。</p> <p>（学）南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互の関わりに関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>					
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	<p>（知）西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播や海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。</p> <p>（思）諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会やなどを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>（学）諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域へのイスラームの拡大の要因に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>					
2学期	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	<p>（知）ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。</p> <p>（思）諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互のつながりなどに着目し、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>（学）諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互のつながりなどに着目し、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>					
	第9章 大交易・大交流時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄	<p>（知）アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。</p> <p>（思）諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>（学）諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互のつながりなどに着目し、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>					
	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 第12章 産業革命と館大西洋革命	<p>（知）宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。</p> <p>（思）大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互のつながりなどに着目し、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>（学）大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互のつながりなどに着目し、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>					
3学期	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動	<p>（知）第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。</p> <p>（思）列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互のつながりなどに着目し、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>（学）列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互のつながりなどに着目し、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>					
	第16章 第一次世界大戦と世界的変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	<p>（知）第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。</p> <p>（思）世界恐慌と国際協体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互のつながりなどに着目し、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>（学）世界恐慌と国際協体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、諸地域相互のつながりなどに着目し、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>					
	第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界	<p>（知）集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に、紛争解決の取組と課題を理解している。</p> <p>（思）国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>（学）国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>					
使用教材 (教科書・副教材)	教科書『詳説世界史 世界史探究』(山川出版社) 副教材『最新世界史図説 タベストーリー』(帝国書院) 『世界史重要語句 Check List』(啓隆社)						
学習方法	①用語集や問題集を活用し、重要歴史用語を把握し、内容を理解する。 ②基本的な知識を関連づけて、「歴史の流れ」や「時代の枠組み」を理解する。 ③図説の図版や史料、地図等を活用し、歴史を多角的に考察する。						
評価方法	(知) 考查7割～8割・平常点2割～3割（提出物等） (思) 考查7割～8割・平常点3割～2割（提出物等） (学) 考查7割～8割・平常点3割～2割（提出物等）						

教科	公民	科目(単位数)	倫理(2)	学年	3	類型	文理共通
学習目標	人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成、人間としての在り方生き方などについて考え、また、人格形成に努める実践力や主体としての自己を確立させ、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。						
評価基準	知識・技能	考査7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）					
	思考・判断・表現	考査7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）					
	主体的に学習に向かう態度	考査7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）					
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標					
1 学期	第1章 さまざまな人間の心のあり方	<p>(知) 人間の心理的諸機能の発達や道徳判断の発達の理論、発達段階についての理論などについて理解できている。知覚、記憶、推論、問題解決といった人間の知的活動にはどのような特徴があるのか理解できている。一人一人の人間にはどのような違いがあるのか、その違いはどのように形成されるのか、その理論について理解できている。物事に対して起こる人間の感情にはどのような特徴があるのか、それは人の適応にとってどのような意味を持つのか理解できている。</p> <p>(思) 人間の心の発達が他者との相互作用の中で育っていくことについて考えることができている。また大人になることの意味について考えようとしている。人間がどのように感じ、学び、考え行動するのかについて考え、人間の特徴、さらに自分の生き方について考えることができている。自分の性格や能力などについて考察し、また他者と共に生きるということについて考え、それを文章に表現したり、発表したりすることができる。欲求や意欲と、自己実現や生きがいとの関わりについて考えることができている。</p> <p>(学) 今の自分の生き方を客観的に考えようとしている。人間の知的な活動がどのような仕組みで行われているのか、興味をもち、考えようとしている。性格はどのように形成されるのか、自分と他の人の性格の違いはどのようにしておこるのか関心をもち、調べようとしている。自分の感情の変化やその意味について考え、調べようとしている。</p>					
	第2章 さまざまな人生観 -源流思想-	<p>(知) ソクラテス・プラトン・アリストテレスなどの思想家が求めた善・美の事柄、国家のあり方、人間観などについて理解できている。ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、仏教、古代中国思想の成立の背景とその宗教的な特徴・教えが理解できている。</p> <p>(思) ギリシア三哲の思想から、人間の存在や価値について考え、現代の私たちが公的な存在としていかに生きるべきか考えることができている。宗教が人間に対して持つ意味について考察するとともに、自分なりの意見を表明できている。</p> <p>(学) 哲学とは何を探求する学問なのかという関心と興味をもち、調べようとしている。現代も多くの人が信仰するキリスト教について興味をもち、その教えがどのようなものであるか調べようとしている。</p>					
	第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚	<p>(知) 日本の気候・地形・植生などの風土が日本人の意識や心情の底流となっていることを理解できている。記紀神話に記された内容や、現在に伝わる民俗・風習から、古代の人々の宗教観や道徳感が理解できている。聖徳太子をはじめ、奈良時代の仏教者、また空海・最澄らがどのように仏教を学び、受容しようとしたか理解できている。末法思想がその時代の仏教に与えた影響、鎌倉時代の仏教がどのように展開したのか理解できている。浄土系仏教と禅宗系仏教および日蓮宗の各特徴が理解できている。古典や芸能などの中に見られる仏教思想の影響について理解できている。江戸時代の儒学について、日本朱子学と日本陽明学の相違、および古学派の主張が理解できている。国学の思想系譜と思想内容、および神道思想についての理解ができている。民衆の思想、および洋学の思想的特徴とその時代背景が理解できている。啓蒙思想・キリスト教思想・伝統思想などを中心にして、西洋の思想がどのように受容されたか、またその受容に対する反発について理解できている。近代文学、大正デモクラシー、近代日本哲学、民俗学などの運動が、何を主張したのか理解できている。グローバリゼーションとナショナリズムとの関係をもとに、第二次世界大戦後の日本の戦後思想が課題としたものについて理解できている。(日本の思想を通して)先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、さまざまな情報を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>(思) 日本の風土や農耕などの営みが日本人の心情の形成にどのように影響しているのか考察することができる。禊や祓ひなどにみられる古代以来の日本的な罪観念について、現代と比較して考察することができる。聖徳太子をはじめとする仏教者が日本に仏教を定着させようとした意義とその影響について考察することができる。奈良から平安時代にかけて受け入れられて来た仏教が、日本でどう受け止められ、また鎌倉時代に仏教を展開したその祖師たちの独自性はどのような点にあるか、考察し、まとめることができる。平安時代以降に書かれた古典文学や、芸能に対して仏教がどのように影響を与え、また、新しい芸術が生み出されていったのか考察できている。江戸時代の儒者たちがそれぞれ儒教をどのように受けとめ、その時代の状況の中でどうあるべきと考えたのか、またそれが日本人の思想形成にどのような影響を与えたのか、考察することができる。本居宣長など国学者が古代の日本人の心情をどうとらえ、それがその時代にどのような影響を与えたのか考えることができる。日本人の思考傾向の中にある儒教的なもの、また江戸時代に培われた思想が現代の日本人の精神に与えた影響について考えてみる事ができる。幕末からの思想的動きを振り返り、明治維新の持つ意味について考察できる。福沢をはじめとする啓蒙思想家や、内村などのキリスト教者が西洋思想を受容して、日本でどのような新たな思想を形成しようとしたのか、またそこにどのような問題があったのか考察することができる。漱石らの近代文学、大正デモクラシー、西田・和辻らの哲学、民俗学などの主張が生まれてきた社会の状況とそこにあった問題意識について考察することができる。グローバリゼーションの進む現代の国際社会の中で、今後の日本がどのような役割を果たしているのかを考え、意見を交わすことができる。</p> <p>(学) 今の私たちの自然観や道徳観がどのようにして生まれどんな特徴を持っているのかについて興味をもち、調べようとしている。現在の仏教の宗派といった在り方に関心をもち、それがどのように生まれ、それぞれの宗派がどのような教えを説いているのかについて興味をもち資料を読み考えようとしている。仏教が日本の文化に与えた影響について関心をもち調べようとしている。現代の生活にも見られる儒教的な儀礼や考え方に注目し、どのような歴史的な状況の中で成立し、社会に影響を与えてきたのか関心をもち調べようとしている。欧米化された現代日本社会の現状を振り返り、明治以降の日本の歩みに関心をもち、どのように日本の近代社会が形成されてきたのか、そこにどのような問題があったのか考えようとしている。</p>					



<p>2 学期</p> <p>第3章 さまざまな倫理観・世界観 -西洋近現代思想-</p>	<p>(知) ルネサンス期の人々、宗教改革の担い手、モラリストといわれる人たちの業績やその主張について理解できている。天文学に始まる近代科学の先駆者の功績について理解できている。デカルト・ベーコンやその後の経験論・合理論の立場に立つ思想家の主張について理解できている。カントの認識論・道徳論の理解を通して、理性の働きやその尊厳について理解することができている。ヘーゲルの弁証法や倫理学の理解を通して、法と道徳、家族と社会と国家の関係について理解できている。ベンサムの量的功利主義とJ.S.ミルの質的功利主義の主張とその違いについて理解できている。プラグマティズムの思想的特徴を理解するとともに、それが社会改善にはたした役割について理解できている。空想的社会主義とマルクスの思想、およびそれ以降の社会主義思想の主張と実践について理解できている。キルケゴール・ニーチェ・ヤスパーズ・ハイデッガー・サルトルといった実存主義の思想家が主体的に生きるということについてどのような主張をしているのか理解できている。フロイトやユングの思想、構造主義やフーコーの思想、フランクフルト学派、現代の科学論などの思想が主張する、人間の理性の問題、社会の構造といった捉え方、などについて理解ができている。レヴィナス・アーレント・ハーバーマスの思想を通して、現代において他者の持つ意味や相互的・共同的な営みにおいて理性が持つ役割について理解ができている。ロールズやセン・サnderlなどが、現代の福祉のあり方についてどのように考えたかについて理解できている。フロム・ウェーバー・リースマンらが、自由という概念がどのように変質し現在どうとらえられていると主張しているか理解できている。ガンディーやシュヴァイツァーの思想や活動を理解し、現代におけるヒューマニズムの意義について理解することができている。キングやサイドの思想から、差別が生まれ出る心のメカニズムを学ぶことができている。</p> <p>(西洋近現代思想を通して) 先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、さまざまな情報を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>(思) ルネサンスと宗教改革の二つの運動がヨーロッパの近代化に持った意義について考察できている。またその二つの運動の共通点と相違点について記述することができている。デカルトやベーコンに始まる思想家が自然と人間の関係をどうとらえ、世界はどのように理解できると考えたのか考察できている。人間の理性や経験をどうとらえ、真理とはどのようなものかを考える中で、科学的思考の意味について考えることができている。・社会契約説を理解した上で、現代の社会において国家のあるべき姿について、また社会と個人のあり方とはどういうものか考察することができている。カントの主張を通して、人間の本質的な自由ということについて考察し、人格として他者を尊敬することの意味について考えることができている。個人の権利や自由が社会の中で実現できることと条件やそのための国家の役割というものについて考察し、自分の意見を発表、議論することができている。功利主義の立場に立つ時、他者といかに関わり、社会を成り立たせるための公正・公平な仕組みを構想できるのか、考察し議論することができている。プラグマティズムの思想が民主主義の発展にどのような役割を果たすことができるか考察することができている。社会主義の主張や目指したものが現代の社会を考えると、どのような視点を与えるのか考えることができている。・実存主義の主張から、今の自分の生き方を問い直し、課題は何かについて考えることができている。西洋哲学が重視してきた合理的思考の意味と限界ということについて、また近代科学に代表される知のあり方の特徴について思索を深め、それが抱える問題について考えることができている。人間の生き方は自由であるという前提に立って、自分自身が自由に生きるための必要な判断基準はどのようなものか考察し、さらに他者に対する共感や他者理解の必要性について思索を深めることができている。先人の努力によって獲得された自由を、高度に発達した現代社会においてどのように考えるべきか考察することができている。自分が自由であること、同時に他者の自由を守っていくということを考える中で、社会参加あるいはボランティア活動について、自分の意見を発表し議論することができている。</p> <p>(学) 近代とはそれまでの時代と何が異なり、その特徴はどこにあるのか考え、調べようとしている。現代の科学・技術と人間生活との関わりに興味をもち、科学的思考の特徴について明らかにしようとしている。「民主的」であることが現在の社会で前提となっていることに対して、その言葉がどのような意味で使われるようになったのか関心をもち、民主主義という考え方がどのように生まれたのか調べようとしている。自分の幸福の実現を考えるとき、民主的な社会とどのように関わっていけばよいかを考え、今の社会はどうあるべきか、どう発展させていくべきか考えようとしている。現代社会のさまざまな問題と人間の思想との関係について興味を抱いている。20世紀に起こった大きな戦争や民族的対立を考える中で、また、現代の国内外の政治を考える時、これまでの人間の営みの中で培ってきた思想や考え方の中で問い直す点は何であるか、考え、調べようとしている。私たちが長い歴史の中で獲得してきた自由の意味について考えようとしている。</p>
<p>現代の諸課題と倫理 (第1節 生命をめぐる諸課題)</p>	<p>(知) 生命の誕生・延命治療・終末医療などの現状を認識し、生命科学の進展とともに起こっているさまざまな問題とそれぞれが抱える倫理的課題について理解することができている。</p> <p>(思) 生命の誕生、病や老いや死の問題などを通して、生きることの意義について思索できている。・生命に関わる倫理的問題に対して、自分の考えをもち、その理由や根拠を明らかにして他の人と対話し、課題の解決の方向を探ることができている。</p> <p>(学) 現代の生命科学や医療技術の状況に関心を寄せて、現状について調査し、その問題点について考えようとしている。</p>
<p>現代の諸課題と倫理 (第2節 自然をめぐる諸課題)</p>	<p>(知) 人間の生命が自然の生態系の中で他の生物との相互依存関係によって維持されていることを踏まえ、現在起こっている環境問題の現状と、その解決を考えるための倫理的視点(環境倫理の主張)について理解できている。</p> <p>(思) 現在の地球規模の環境汚染・破壊といった問題の解決方法を探ると同時に、将来の世代に対して責任を持つ行動とはなにかという視点から倫理的課題について考察し、議論し合意の形成に努力しようとしている。</p> <p>(学) 人間も含め多くの生き物が生きる生態系の中で今どのような問題が起こっているのかに関心をもち、それらの解決に必要なことは何か調べ考えようとしている。</p>
<p>使用教材 (教科書・副教材)</p>	<p>教科書『倫理』(数研出版) 副教材『最新図説 倫理』(浜島書店)</p>
<p>学習方法</p>	<p>①内容を理解する。 ②幅広い知的蓄積を活用して、論理的に思考し、説明したり対話したりできるようになる。 ③図説の図版や史料、地図等を活用し、倫理的諸課題を多角的に考察する。</p>
<p>評価方法</p>	<p>(知) 考査 7割～8割・平常点 2割～3割(提出物等) (思) 考査 7割～8割・平常点 3割～2割(提出物等) (学) 考査 7割～8割・平常点 3割～2割(提出物等)</p>

教科	公民	科目(単位数)	政治・経済(2)	学年	3	類型	文理共通
学習目標	政治や経済の基本原則の理解をはかるとともに、グローバル化の著しい現代を生きる資質を育成する。また、人間尊重の精神に基づいて、人間の存在や価値についての理解と思索を深め、自主的で実践的な態度の育成に努める。						
評価基準	知識・技能	考查7割～8割・平常点2割～3割(提出物等)					
	思考・判断・表現	考查7割～8割・平常点2割～3割(提出物等)					
	主体的に学習に向かう態度	考查7割～8割・平常点2割～3割(提出物等)					
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標					
1学期	第2章 現代の経済	<p>(知) ●資本主義経済の発達と変容について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●経済主体と経済循環について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。特に、家計の役割については、家計は所得の制約の中で消費や貯蓄を行い、労働を企業に供給していること、消費と貯蓄が企業の生産や投資と密接に関連していることを理解している。企業の役割については、企業が家計や他の企業から提供された土地、労働、資本といった生産要素を結合し生産活動を行うことを理解している。政府の役割については、現代の政府が、家計や企業の経済活動に委ねることの困難な部門を引き受けていること、資源の配分、景気変動の調整、所得や資産分配の不平等を是正するなどの役割を果たしていることを理解している。また、政府以外に特定非営利活動法人(NPO法人)などの新たな経済主体が生まれていて、経済循環が複雑、多様化していることを理解している。●市場経済における、経済活動と市場の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。特に、代表的な経済学者の考え方や市場構造の変動、具体的な市場における価格形成の事例の考察を通して理解を深めている。●国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●財政の働きと仕組み及び租税などの意義について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●戦後日本経済のあゆみについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●中小企業と農業・食料について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●公害防止と環境保全について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●消費者問題と消費者保護について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●労使関係と労働市場について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●少子高齢社会と社会保障について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察・構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。</p>					
	第1節 経済活動の意義と経済体制 1 資本主義経済の発展と変容 2 経済活動の主体	<p>(思) ●資本主義経済の発展と変容について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●経済活動の主体について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●市場経済の機能と限界について、代表的な経済学者の考え方や市場構造の変動、具体的な市場における価格形成の事例の考察を通して、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現している。●金融を通じた経済活動の活性化について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●持続可能な財政及び租税の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。また、歳入・歳出両面での財政健全化について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。●戦後日本経済のあゆみについての学習を通して、経済活動と福祉の向上との関連について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察し、表現している。●産業構造の変化と起業、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。●公害防止と環境保全など安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。●消費者問題と消費者保護について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。●多様な働き方・生き方を可能にする社会について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。●少子高齢社会における社会保障の充実・安定化について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。●社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。</p>					
第2節 現代経済のしくみ 1 市場経済のしくみ 2 国民所得と経済成長 3 金融のしくみと働き 4 財政のしくみと租税	<p>(学) ●経済活動の意義と経済体制の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●経済活動の意義と経済体制の学習を通して、現代日本の経済・現代の国際経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。●現代経済のしくみの学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●経済活動の意義と経済体制の学習を通して、現代日本の経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。●日本経済と福祉の向上の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●日本経済と福祉の向上の学習を通して、現代日本の経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。●現代日本の経済に関する諸課題の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●現代日本の経済に関する諸課題の学習を通して、現代日本の経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>						
第3節 日本経済と福祉の向上 1 戦後日本経済のあゆみ 2 中小企業と農業・食料 3 公害防止と環境保全 4 消費者問題と消費者保護 5 労使関係と労働市場 6 少子高齢社会と社会保障 Thinking Time							

	<p>第1章 現代の政治</p> <p>第1節 民主政治の基本原則と展開</p> <p>1 民主政治とその基本原則</p> <p>2 民主政治の展開</p> <p>3 政治体制の比較</p> <p>第2節 日本国憲法と基本的人権</p> <p>1 日本国憲法の基本的性格</p> <p>2 基本的人権の保障</p> <p>3 日本国憲法の平和主義</p> <p>第3節 日本の政治機構</p> <p>1 国会のしくみと役割</p> <p>2 内閣と行政機構</p> <p>3 裁判所のしくみと人権保障</p> <p>4 地方自治のしくみと住民生活</p> <p>第4節 政治参加と民主政治の課題</p> <p>1 戦後政治と政党</p> <p>2 選挙制度のしくみ</p> <p>3 世論と情報化社会</p> <p>Thinking Time</p>	<p>(知) ●民主政治の基本原則として、絶対主義、自然権、社会契約、法の支配などの概念や、議会制や権力分立制などとの関連性についての理解を深めている。また、民主政治の本質について、一国の政治の在り方を最終的に決定する権力が国民にあるとする国民主権の考えを原理とし、国民による承認ないし同意に権力の正統性を求める政治であるという理解を基に、民主政治は国民の自治を最大限に重視しながらも、自治の側面と強制的側面とのバランスをとっていこうとする政治体制であることについて理解を深めている。●法の支配や立憲主義の考え方が成立した近代政治の過程や、それらの考えの基に憲法が定められ、国民の自由や権利が保障されていることについて理解を深めている。また、国際連合により採択された世界人権宣言、国際人権規約などの人権文書の意義を踏まえ、人権擁護は人類共通の課題であるという認識が世界的に広まっていることについての理解を深めている。●世界の主な政治体制について、同じ民主政治でも、イギリスでは議院内閣制、アメリカでは大統領制というように、各国の政治文化を背景にして様々な形態があること、また、近隣アジア諸国の政治体制、政治状況の特質や動向を取り上げ、民主政治の現状についての理解を深めている。●日本国憲法と大日本帝国憲法の比較を通して、それぞれの特徴の理解を深めている。●基本的人権の尊重について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。特に、公共の福祉に関し、人権は侵すことのできない永久の権利であるものの無制限に認められるわけではなく、他者の人権保障のために制約される場合があることについて理解を深めている。●我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●議会制民主主義が、理想的には権力分立制の下、国民代表制と多数決の原理に基づく議会を通じて運営されていることを、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●内閣と行政機構の在り方について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●裁判所のしくみと人権保障について、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために法に基づく公正な裁判の保障があること、公正な裁判のためには司法権の独立が必要であることを、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、裁判員制度を通して、国民の司法参加の意義について理解を深めている。●地方自治について、地方自治が住民自らの意思と責任の下で行われるものであり、民主政治の基盤をなすものであることについて理解を深めている。また、我が国の地方自治の政治制度では、直接民主制の考え方が国政よりもより多く取り入れられていることや、執行機関の最高責任者である首長と議会の議員とが、住民を代表するものとして、それぞれ独立に選出され、相互に抑制と均衡の関係を保っていること等について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●戦後政治と政党について、戦後政治の推移を、55年体制の成立と崩壊の過程であることについて理解を深めている。また、政党が同じ政治上の主義・主張を有する者により組織され、政策を示し、選挙を通して多くの人々の合意を得て政権を獲得しそれを実現しようとする団体であり、議会制民主主義の運営上欠くことのできないものであることについて理解を深めている。●選挙制度のしくみについて、その背景として参政権が普通選挙制度の実現によって確立し、政治的平等の原理の保障に至ったという理解の基に、選挙や国民投票など、国民の政治参加のための制度との関連について理解を深めている。●世論と情報化社会について、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を容易に活用でき、短時間で大量の情報を手に入れることが可能となった現代社会において、信頼できる情報源を見極めて、必要な情報とそうでない情報、信用できる情報とそうでない情報を選別するための合理的な基準を形成し、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。●現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察・構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。</p> <p>(思) ●民主政治の基本原則として、絶対主義、自然権、社会契約、法の支配などの概念や、議会制や権力分立制などとの関連性について多面的・多角的に考察し、表現している。また、民主政治の本質の理解を基に、現代政治との関連性を多面的・多角的に考察し、表現している。●法の支配や立憲主義の考え方が成立した近代政治の過程や、それらの考えの基に憲法が定められ、国民の自由や権利が保障されていることの意義について、自由権と社会権の成立過程や、参政権の拡大過程、ファシズムやポピュリズム等の危険性等を多面的・多角的に考察し、表現している。また、国際連合により採択された世界人権宣言、国際人権規約などの人権文書の意義と課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。●民主政治の本質の理解を基に、世界の主な政治体制と関連させながら、現代政治の在り方について多面的・多角的に考察し、表現している。●国民主権と天皇主権という異なる基本原則に基づく日本国憲法と大日本帝国憲法によって形成された国家体制の違いや国民の権利保障の在り方の違いについて多面的・多角的に考察し、表現している。●民主政治の本質についての理解を基に、憲法とは国民の自由や基本的人権を保障するために、それらを制限することができる国家の組織や政府の行為について規定するものであり、国のあらゆる法の基盤となる最高法規であるという立憲主義の考え方に基づいて、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。●我が国の安全保障と防衛の在り方を示す具体的事例や、自衛隊などが参加する国連平和維持活動(PKO)など日本が国際社会に貢献してきた具体的な事例を取り上げ、その現状や他の先進国との比較などを通して国際社会における日本の立場と役割について探究することを通して、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●議院内閣制における国会と内閣の関係について、国民主権の下で、国民の意思を国政に反映させるため国会の立法権と内閣の行政権の適切な関係性について多面的・多角的に考察し、表現している。●内閣と行政機構の在り方について、行政国家、官僚制、大衆民主主義などの概念を取り上げ、福祉国家の下で国家機能が著しく複雑化・大規模化して、行政府の役割が増大化したことなどを踏まえて、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方等について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●裁判所のしくみと人権保障について、人権の保障を目指す法の下に政治権力を従属させることによって、為政者の恣意的支配を排除し、国民主権を確立し人権保障を確保しようとする民主政治に不可欠な法の支配の原理に基づき、個人の尊厳と法の下での平等を求めるものであることについて、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●地方自治について、地方自治における直接請求権など、投票以外にも多様な政治参加の在り方があることについての理解を基に、生徒自らの主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●戦後政治と政党について、政党が同じ政治上の主義・主張を有する者により組織され、政策を示し、選挙を通して多くの人々の合意を得て政権を獲得しそれを実現しようとする団体であり、議会制民主主義の運営上欠くことのできないものであることについての理解を基に、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●選挙制度の課題について、政治的平等の原理の保障の観点から多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●マスメディアなどが国民世論の形成に果たす役割が大きいこと、特定の政治的志向をもたない人々が増加したり、政治的無関心の広がりが見られたりすることなどを踏まえ、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。●民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>(学) ●民主政治の基本原則と展開の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●民主政治の基本原則と展開の学習を通して、現代日本の政治・現代の国際政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。●日本国憲法と基本的人権の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●民主政治の基本原則と展開の学習を通して、現代日本の政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。●日本の政治機構の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●民主政治の基本原則と展開の学習を通して、現代日本の政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。●政治参加と民主政治の課題の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●民主政治の基本原則と展開の学習を通して、現代日本の政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。●現代日本の政治に関する諸課題の学習を通して、現代日本の政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。●現代日本の政治に関する諸課題の学習を通して、現代日本の政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>使用教材 (教科書・副教材)</p>	<p>教科書『政治・経済』(数研出版)</p> <p>副教材『最新図説 政経2024』(浜島書店)</p>	
<p>学習方法</p>	<p>①内容を理解する。</p> <p>②幅広い知的蓄積を活用して、論理的に思考し、説明したり対話したりできるようになる。</p> <p>③図説の図版や史料、地図等を活用し、政治的諸課題を多角的に考察する。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>(知) 考查7割～8割・平常点2割～3割(提出物等)</p> <p>(思) 考查7割～8割・平常点3割～2割(提出物等)</p> <p>(学) 考查7割～8割・平常点3割～2割(提出物等)</p>	

教科	数学	科目(単位数)	数学Ⅱ(1)、数学B(2)、数学C(2)	学年	3	類型	文系コース
学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、次のような数学的に考える資質・能力を身に付ける。 (1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力 (3) 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力 (4) 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力 (5) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度 (6) 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度						
評価基準	知識・技能	調査約8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況約2割（100点満点中70点以上でA、40点以上でB、39点以下でC）点数は目安					
	思考・判断・表現	調査約9割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況約1割（100点満点中70点以上でA、40点以上でB、39点以下でC）点数は目安					
	主体的に学習に向かう態度	調査約7割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況約3割（100点満点中70点以上でA、40点以上でB、39点以下でC）点数は目安					
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標					
年度初～ 1学期 中間考査	【基礎徹底演習】 Ⅰ分野	(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
1学期中間～ 期末考査	【基礎徹底演習】 A、Ⅱ分野	(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
1学期期末 ～2学期 中間考査	【基礎徹底演習】 Ⅱ、B、C分野	(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
2学期中間～ 学年末考査	【重要問題演習】 全分野	(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
学年末 ～年度末	【直前問題演習】 全分野	(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
使用教材	① 教科書 : 「高等学校数学Ⅰ、A、Ⅱ、B、C」(数研出版) ② 教科書理解補助参考書 : 「数学Ⅰ・A、Ⅱ・B入門問題精講」(旺文社) ③ 反復練習用問題集 : 「4プロセス 数学Ⅰ+A、Ⅱ+B、C」(数研出版) ④ 網羅系参考書・問題集 : 「チャート式基礎からの数学Ⅰ+A、Ⅱ+B、C」(数研出版)※デジタル版も含む ⑤ 共通テスト対策問題集 : 「共通テスト実力養成基礎徹底演習問題集」(ラーンズ) ⑥ 共通テスト対策問題集 : 「共通テスト実力養成重要問題演習問題集2025」(ラーンズ) ⑦ 共通テスト対策問題集 : 「共通テスト直前演習Ⅰ・A、Ⅱ・B・C2025」(ラーンズ) ⑧ 個別試験対策問題集 : 「ニューグローバルマーチ数学Ⅰ+A+Ⅱ+B+C」(東京書籍)						
学習方法	(1) 教科書を読み、定義を理解するために具体例に触れる。そのときに、書いて数式や記号に慣れる。最初は、写して手で慣れることも大切。 ①②を活用 (2) 定理や公式の証明を理解し、何も見ずに証明を再現できるようになる。最初は、写してもよい。 ※(2)は後回しにしてもよい。 ①②を活用 (3) 定理や公式の使い方を身に付けるために、問題を解く。速く正確に解けるように反復練習をする。 ③を活用 (4) 定理や公式を活用することで解決できる応用問題を解く。解法を理解したうえで、解法のポイントとなる箇所を覚えていく。 ④を活用 (5) 定理や公式など複数のことを使い、試行錯誤をしないと解けないような発展問題に取り組み、総合的な数学の力や、思考力を培う。 ⑤⑥⑦⑧を活用 (6) 教科担当者・友人への質問や対話を通じて理解が深まってきます。1人で考えることも大切ですが、積極的にコミュニケーションをとりましょう。 (7) Youtube・ネットや、①の例・例題・応用例題、④の例題、⑧のExercise BとTryの問題には解説動画があるので、活用してください。						
評価方法	(知) 調査で約8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況で約2割を目安に総合的に評価 (思) 調査で約9割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況で約1割を目安に総合的に評価 (学) 調査で約7割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況で約3割を目安に総合的に評価						

令和7年度（2025年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	数学	科目(単位数)	数学Ⅲ(3)、数学B(2)、数学C(2)	学年	3	類型	理系コース
学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、次のような数学的に考える資質・能力を身に付ける。 (1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力 (3) 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力 (4) 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力 (5) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度 (6) 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度						
評価基準	知識・技能	調査約8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況約2割(100点満点中70点以上でA、40点以上でB、39点以下でC) 点数は目安					
	思考・判断・表現	調査約9割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況約1割(100点満点中70点以上でA、40点以上でB、39点以下でC) 点数は目安					
	主体的に学習に向かう態度	調査約7割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況約3割(100点満点中70点以上でA、40点以上でB、39点以下でC) 点数は目安					
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標					
年度初～ 1学期 中間考査	【教科書 数学Ⅲ】 第3章 微分法 第4章 微分法の応用	(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
1学期中間～ 期末考査	【教科書 数学Ⅲ】 第5章 積分法とその応用	(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
1学期期末 ～2学期 中間考査	【ニューグローバルマーチ演習】 【ニューグローバルⅢ演習】	(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
2学期中間～ 学年末考査	【重要問題演習】 【ニューグローバルⅢ演習】	(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
学年末 ～年度末	【直前問題演習】	(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
使用教材	① 教科書 : 「高等学校数学Ⅰ、A、Ⅱ、B、C、Ⅲ」(数研出版) ② 教科書理解補助参考書 : 「数学Ⅰ・A、Ⅱ・B、Ⅲ・C入門問題精講」(旺文社) ③ 反復練習用問題集 : 「4プロセス 数学Ⅰ+A、Ⅱ+B、Ⅲ+C」(数研出版) ④ 網羅系参考書・問題集 : 「チャート式基礎からの数学Ⅰ+A、Ⅱ+B、Ⅲ+C」(数研出版) ※デジタル版も含む ⑤ 共通テスト対策問題集 : 「共通テスト実力養成基礎徹底演習問題集」(ラーンズ) ⑥ 共通テスト対策問題集 : 「共通テスト実力養成重要問題演習問題集2025」(ラーンズ) ⑦ 共通テスト対策問題集 : 「共通テスト直前演習Ⅰ・A、Ⅱ・B・C2025」(ラーンズ) ⑧ 個別試験対策問題集 : 「ニューグローバルマーチ数学Ⅰ+A+Ⅱ+B+C」(東京書籍) ⑨ 個別試験対策問題集 : 「ニューグローバル数学Ⅲ」(東京書籍)						
学習方法	(1) 教科書を読み、定義を理解するために具体例に触れる。そのときに、書いて数式や記号に慣れる。最初は、写して手で慣れることも大切。 ①②を活用 (2) 定理や公式の証明を理解し、何も見ずに証明を再現できるようになる。最初は、写してもよい。 ※(2)は後回しにしてもよい。 ①②を活用 (3) 定理や公式の使い方を身に付けるために、問題を解く。速く正確に解けるように反復練習をする。 ③を活用 (4) 定理や公式を活用することで解決できる応用問題を解く。解法を理解したうえで、解法のポイントとなる箇所を覚えていく。 ④を活用 (5) 定理や公式など複数のことを使い、試行錯誤をしないと解けないような発展問題に取り組み、総合的な数学の力や、思考力を培う。 ⑤⑥⑦⑧を活用 (6) 教科担当者・友人への質問や対話を通じて理解が深まってきます。1人で考えることも大切ですが、積極的にコミュニケーションをとりましょう。 (7) Youtube・ネットや、①の例・例題・応用例題、④の例題、⑧のExercise BとTryの問題には解説動画があるので、活用してください。						
評価方法	(知) 調査で約8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況で約2割を目安に総合的に評価 (思) 調査で約9割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況で約1割を目安に総合的に評価 (学) 調査で約7割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況で約3割を目安に総合的に評価						

教科	理科	科目(単位数)	物理(4)	学年	3	類型	理系
学習目標	物理や物理現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な、次のような資質・能力を育成する。 (1) 物理の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度						
評価基準	知識・技能	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	思考・判断・表現	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	主体的に学習に向かう態度	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標					
年度初～1学期中間 中間調査	総合物理②第3編 波 第3章 光	(知) 光は進んでいくとき、反射、屈折、分散、散乱を行うこと、またその際にどのような法則が成りたっているのかを理解している。 レンズと鏡によって生じる像を作図することができる。また、写像公式を理解し、式を利用して像のできる位置や像の大きさなどを求めることができる。 ヤングの実験、回折格子、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解している。					
		(思) 光が2つの媒質の境界面で屈折するようすの図から、どちらの媒質のほうが光が伝わるのが速いか判断できる。 凸レンズの焦点距離の外側に物体(光源)を置くと、どのような像が生じるか説明することができる。 ヤングの実験で光が強めあうときの条件を説明することができる。					
		(学) 光が関係する現象に興味をもち、光についての基本事項と光の進み方について理解しようとしている。 レンズや鏡に興味をもち、それによってどのような像ができるかについて理解しようとしている。 しゃぼん玉やCD・DVDが色づいて見えることについて興味をもち、光の干渉や回折の現象を理解しようとしている。					
1学期中間～期末 中間調査	総合物理②第4編 電気と磁気 第1章 電場 第2章 電流	(知) 電気量保存の法則やクーロンの法則について理解し、関係式を正しく適用できる。 電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく適用できる。 電位について理解し、さまざまな関係式を正しく適用できる。 抵抗を直列、並列に接続したとき、電流、電圧がどのような関係にあるかを理解している。また、これらのことを踏まえて、電圧計、電流計や分流器、倍率器の正しい使用方法についても理解できている。					
		(思) 静電誘導及び誘電分極の現象について、それぞれ説明できる。 電荷間距離と電場の強さの関係のグラフの形状を、電場の性質から考察できる。 電場はベクトル量、電位はスカラー量であることを理解し、説明できる。 測定する抵抗値の大きさによって、どのような電気回路がより正しい値を測定できるかを判断できる。					
		(学) 身近な現象から、静電気の現象に興味・関心をもち、さまざまな静電気現象について理解しようとしている。 電氣的な力が及ぶ空間である電場について、興味・関心を示している。 電気回路の各抵抗への電流が流れる量や電圧の加わり方がどのようになるかに興味を示している。					
1学期期末～2学期 中間調査	総合物理②第4編 電気と磁気 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波	(知) 磁気量について、磁気力に関するクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを通して理解している。 フレミングの左手の法則について理解している。 さまざまな電磁誘導の事例について理解している。また、関係式も適用できる。 交流電圧の公式を理解している。また、交流電流・交流電圧の実効値の意味を理解している。					
		(思) フレミングの左手の法則を用いて、電流の流れている導線がどの向きに力を受けるかを判断することができる。 ある荷電粒子の記述について、これまでの学習内容を踏まえて考え、答えることができる。 レンツの法則について説明できる。 コイルを回転させる速さと誘導起電力の大きさの関係を説明できる。					
		(学) 導線に電流を流すと導線のまわりに磁場ができることに驚きと興味を示し、より深くこのことについて学ぼうとしている。 オーロラなどのローレンツ力の例に興味・関心を示し、ローレンツ力について理解しようとしている。 身近にある自転車の発電機の原理はどのようにになっているかということに興味・関心をもっている。また、交流そのものについての知識をもととする意欲がある。					
2学期中間～期末 調査・年度末	総合物理②第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 電子と原子核	(知) 光電効果について理解している。 X線の性質、特徴について理解している。 ボーア理論(量子条件・振動条件)について理解している。 放射性崩壊によって、原子核がどのように変化するか理解している。					
		(思) 光電効果の原理を踏まえて、考え、説明することができる。 X線回折とX線のコンプトン効果について、波動性と粒子性を踏まえて説明できる。 電子のエネルギー準位について理解し、説明できる。 $\alpha$ 線、 $\beta$ 線、 $\gamma$ 線の正体や、 $\alpha$ 崩壊、 $\beta$ 崩壊のしくみを説明できる。					
		(学) 光が粒子性をもつことに興味・関心を示し、光電効果の原理などを理解しようとしている。 健康診断の検査などで使われているX線とはどのようなものであるかに関心を示し、理解しようとしている。 原子と原子核の大きさの差から原子に興味・関心を示し、原子の構造とエネルギー準位についても理解しようとしている。 「放射線」と「放射性物質」ではどのように意味が異なるかに、興味・関心を示し、放射線とその性質について理解しようとしている。					
使用教材 (教科書・副教材)	教科書:「総合物理②」(数研出版) 資料集:「新課程フォトサイエンス物理図録」(数研出版) 問題集:「セミナー物理基礎+物理2024」(第一学習社) 「進研WINSTEP」(Learns)						
学習方法	授業中における課題と復習に重点的に取り組むこと。予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること。定期的に小テストや課題を課し、評価する。						
評価方法	(知) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (思) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (学) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割						

教科	理科	科目（単位数）	化学（4）	学年	3	類型	理系 5・6・7組
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力と態度を身に付ける。						
評価基準	知識・技能	①定期考査の知識・技能：6割 ②小テスト：2割 ③各課題：2割					
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②小テスト・ワークシート：2割 ③各課題：2割					
	主体的に学習に向かう態度	①定期考査：4割 ②小テスト・ワークシート：3割 ③各課題：3割					
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標				
1学期中間考査	5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素		【知】	①有機化合物についての実験などを通して、その基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。 ②有機化合物についての実験などを通して、炭化水素の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。			
			【思】	①有機化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 ②炭化水素について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。			
			【感】	①有機化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 ②炭化水素について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
1学期期末考査	5編 有機化合物 3章 アルコールと関連化合物 4章 芳香族化合物 5章 有機化合物と人間生活		【知】	①有機化合物についての実験などを通して、官能基をもつ化合物の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。 ②有機化合物についての実験などを通して、芳香族化合物の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。			
			【思】	①官能基をもつ化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 ②芳香族化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。			
			【感】	①官能基をもつ化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 ②芳香族化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
2学期中間考査	6編 高分子化合物 1章 天然高分子化合物 2章 合成高分子化合物 3章 高分子化合物と人間生活		【知】	高分子化合物についての実験などを通して、その基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。			
			【思】	高分子化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。			
			【感】	高分子化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
2学期期末考査	・理論分野総合演習 ・無機分野総合演習 ・有機分野総合演習		【知】	化学が果たす役割についての実験などを通して、その基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。			
			【思】	化学が果たす役割について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している			
			【感】	化学が果たす役割について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
学年末考査	・理論分野総合演習 ・無機分野総合演習 ・有機分野総合演習		【知】	化学が果たす役割についての実験などを通して、その基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。			
			【思】	化学が果たす役割について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している			
			【感】	化学が果たす役割について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「化学 Vol.1 理論編」「化学 Vol.2 物質編」（東京書籍）、副教材：「2024セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）」						
学習方法	授業・復習のサイクル（教科書や問題集の基本問題を自分で解けるようになるまで取り組む。						
評価方法	(知) 定期考査・確認テスト・章末テスト (思) 定期考査・実験プリント (レポート)・課題プリントなど (感) 確認テスト・課題や授業への取り組み状況等						

教科	理科	科目(単位数)	生物(4)	学年	3	類型	理系		
学習目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生物学の基本的な概念や原理、法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度。								
評価基準	知識・技能	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割							
	思考・判断・表現	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割							
	主体的に学習に向かう態度	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割							
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標							
年度初～1学期中間	生物 第4章 遺伝情報の発現と発生	(知) ・DNAの複製のしくみを理解する。 ・遺伝情報の発現のしくみを理解する。 ・遺伝子の発現が調節されていることを理解する。 ・原核生物と真核生物において、遺伝子の発現が調節されるしくみを理解する。 ・発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。 ・遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 (思) ・DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製のしくみを見いだすことができる。 ・岡崎フラグメントの存在を示唆する実験データに基づいて、岡崎フラグメントが存在することを論理的に説明することができる。 ・真核生物と原核生物の遺伝情報の発現の過程を表した資料を比較し、遺伝子発現の過程の違いを見いだすことができる。 ・DNAの塩基では、ウランではなくチミンが用いられている理由を考え、説明することができる。 ・遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見いだすことができる。 ・ラクトースオペロンに突然変異が生じた2種類の突然変異株に野生株のDNAを導入する実験の結果に基づいて、それぞれの突然変異株についてDNAのどの領域に異常があったのかを推定することができる。 ・同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる細胞に分化する要因として、細胞質に含まれる物質が分裂の際に不均等に分配されることや、周囲の細胞からの誘導があることを理解し、説明することができる。 ・遺伝子組換え技術によって、ある生物の遺伝子を別の生物に発現させることができる理由を考え、説明することができる。 ・mRNAワクチンと従来のワクチンを比較し、mRNAワクチンの利点や問題点について考え、説明することができる。 (学) ・DNAの構造と複製に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝子の発現調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・発生と遺伝子発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝子を扱う技術に関心をもち、主体的に学習に取り組める。							
		1学期中間～期末	生物 第5章 動物の反応と行動	(知) ・眼の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられ、視覚が生じることを理解する。 ・受容器の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 ・ニューロンの興奮が細胞膜で生じる電気的な変化であることを、イオンチャネルのはたらきを踏まえて理解する。 ・ニューロンに生じた興奮が次のニューロンへと伝えられるまでの過程を理解する。 ・ヒトの神経系の構造について理解する。 ・ヒトの脳の構造とそれぞれの部位がもたらすことについて理解する。 ・代表的な効果器である筋肉の構造について理解する。 ・筋肉が、神経系から伝達してきた刺激を受け取って収縮するしくみを理解する。 ・動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。 (思) ・視細胞の分布に関する資料に基づき、盲点の存在を見いだすことができる。 ・ヒトの視覚経路の構造について理解し、視神経を切断した場合の見え方と関連づけて説明することができる。 ・人工臓器の一つである人工内耳の原理について説明し、人工内耳を装着した患者に対する留意すべき点について考えることができる。 ・軸索を刺激する実験の資料に基づき、ニューロンの興奮に見られる性質を見いだすことができる。 ・神経筋標本による実験の資料に基づき、伝導や伝達に要する時間を計算することができる。 ・反射が無意識のうちで起こる理由を、興奮の伝達経路と関連づけながら説明することができる。 ・死後硬直のしくみについて、筋肉収縮のしくみに着目しながら説明することができる。 ・ジョウジョウハエの求愛行動が、雄と雌の互いの行動によって連鎖的に進行していくことを、雌雄の神経回路の違いと関連づけながら説明することができる。 (学) ・刺激の受容に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・ニューロンとその興奮に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・情報の統合に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・刺激への反応に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・動物の行動に関心をもち、主体的に学習に取り組める。					
				1学期期末～2学期中間	生物 第6章 植物の環境応答	(知) ・植物は周囲の環境の変化を感知して、その環境に応答することを理解する。 ・環境からの情報伝達に植物ホルモンがはたらいていることを理解する。 ・植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみを理解する。 ・植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽する意義を理解する。 ・植物の成長が光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。 ・植物の成長の調節に植物ホルモンがかかわっていることを理解する。 ・植物は、葉、茎、根、花などの器官への分化を通して成長していくことを理解する。 ・植物の器官の分化は周囲の環境の変化や成長の段階に応じて調節されていることを理解する。 ・植物が水の出入りを調節するしくみを理解する。 ・植物の防御応答について理解する。 ・被子植物の配偶子形成と受精のしくみを理解する。 ・被子植物の種子の形成や果実の成熟のしくみを理解する。 (思) ・エチレンが空中を拡散していることを確かめるためにどのような実験を行えばよいかを考え、説明することができる。 ・光発芽種子の発芽条件と、樹木の葉群の上下での各波長の光の割合とを関連づけて、光発芽種子がもつ利点を見いだすことができる。 ・茎や根が必ず先端部から少し基部側で曲がる理由について考え、説明することができる。 ・植物が重力方向を感じてきた場合、自然界での成長においてどのような不都合があるかを考え、説明することができる。 ・植物の成長様式を踏まえて、ある木の幹についた傷が時間経過によってどうなるかを考え、説明することができる。 ・花芽の形成が日長によって引き起こされることの利点について考え、説明することができる。 ・高緯度の寒帯地域ではおもに長日植物が生育している理由について考え、説明することができる。 ・花芽形成に関する実験結果をもとに、葉で感知された日長の情報がどのように伝達されるかを考え、説明することができる。 ・常に防御物質を蓄積している植物と食害を受けてから防御物質を合成する植物を比較し、それぞれが有利・不利になる環境を考え、説明することができる。 ・裸子植物と比較して、被子植物が行う重複受精にはどのような利点があるのかを考え、説明することができる。 ・胚のうち各細胞の有無と花粉管誘引に関する実験結果をもとに、被子植物の受精で花粉管が胚のうへへと誘引されるしくみについて考え、説明することができる。 ・植物ホルモンがかかわる例の一つとして、種なしぶどうのつくり方を調べ、説明することができる。 ・植物とヒトの光刺激に対する受容と反応のしくみの違いや共通点について考え、説明することができる。 (学) ・植物の生活と植物ホルモンに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・発芽の調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・成長の調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・器官の分化と花芽形成の調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・環境の変化に対する応答に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・配偶子形成と受精に関心をもち、主体的に学習に取り組める。			
2学期中間～期末 年度末	生物 第7章 生物群集と生態系					(知) ・個体群の成長には個体群密度が関係していることを理解する。 ・個体群の個体数の変化には、その個体群の年齢構成や年齢ごとの死亡率などが影響することを理解する。 ・群れや網張りについて、その大きさに応じて生じる利益と不利益の兼ね合いによって、最適な大きさが存在していることを理解する。 ・個体群内で見られる個体どうしの社会的な関係とその利益を理解する。 ・生物群集には、捕食・被食や種間競争、共生などの種間関係があることを理解する。 ・生態的地位(ニッチ)の概念を理解する。 ・生態系内で多種の共存を可能にしているしくみを理解する。 ・生産者による物質生産によって生態系内の生物に有機物やエネルギーが供給されることを理解する。 ・生態系では食物連鎖を通じて物質が循環し、エネルギーが移動していることを理解する。 ・生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。 ・人間活動が生態系に与える影響の例として、窒素排出量の増加や生息地の分断化などがあることを理解する。 (思) ・標識再捕法で個体数が推定できる理由を、対象となる生物の個体群の性質などを踏まえて説明することができる。 ・与えられた条件をもとに、個体群の個体数を推定することができる。 ・生存曲線のそれぞれの型が有利になる生息環境について、その生物がおかれている状況と年齢ごとの死亡率を関連させて推測し、説明することができる。 ・最適な群れの大きさを決める要因を理解し、群れのおかれた環境に応じて時間の配分率のグラフがどのように変化するかを説明することができる。 ・群れを形成するアユの体長について、個体群密度との関係を考えて説明することができる。 ・3種のゾウムシのなかまの飼育時の個体群密度の変化の資料に基づいて、生活上の要求の違いによって異なる個体群が共存できていることを見いだすことができる。 ・2種のフジツボの成体の分布が分かれることについて、種間競争や乾燥への耐性と関連づけて説明することができる。 ・エゾアカガエルの実験結果について、捕食者の存在の有無を踏まえて理由を考察することができる。 ・現存量当たりの純生産量の生態系ごとの違いについて、その生態系を構成する生産者の生産構造と関連づけて説明することができる。 ・生態系におけるエネルギー量とエネルギー効率を計算することができる。 ・施肥による窒素の増加とサンゴ礁の破壊に関する資料に基づいて、人間活動が生態系に影響を及ぼしていることを見いだすことができる。 ・植林活動と海の豊かさの関係について、学習したことをもとに、資料などにまとめて自分の言葉で説明することができる。 (学) ・個体群の構造と性質に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・個体群内の個体間の関係に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・異なる種の個体群間の関係に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・生態系の物質生産と物質循環に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・生態系と人間生活に関心をもち、主体的に学習に取り組める。			
		使用教材(教科書・副教材)	教科書：「生物」(数研出版) 資料集：「新課程フォトサイエンス生物図録」(数研出版) 問題集：「リードLightノート 生物基礎」「リードLightノート 生物」数研出版 「改訂版センサー総合生物」啓林館 「チェック&演習 生物」数研出版						
		学習方法	授業中における課題と復習に重点的に取り組むこと。予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく理解度に差がつくので、積極的に授業に参加すること。定期的な小テストや課題を課し、評価する。						
評価方法	(知) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (思) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (学) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割								



令和7年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目 (単位数)	地学基礎 (2)	学年	3	類型	文系
学習目標	地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、地学的な探究の方法を身に付けるとともに、地球の自然環境と日常生活や社会との関わりを考えることができるようにする。						
評価基準	知識・技能	考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	思考・判断・表現	考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	主体的に学習に向かう態度	考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
期間	単元 (学習内容)		学習の到達目標				
～1学期 中間考査	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 2 海水の運動 3 日本の天気と気象災害		<p>(知) 大気の大循環と海水の大循環の関係を理解する。</p> <p>(思) 熱の輸送と大気や海水の大循環の関係を通して風の吹き方やについて各季節の特徴を考察することができる。</p> <p>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。</p>				
～1学期 期末考査	第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 1 気候の自然変動 2 人間活動による環境変化 3 日本の自然環境		<p>(知) エルニーニョ、温暖化、オゾン層の破壊などの環境変化について理解する。</p> <p>(思) 人間活動による環境変化が今後及ぼす影響について考察することができる。</p> <p>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。</p>				
～2学期 中間考査	第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 1 太陽系の天体 2 太陽 3 太陽系の誕生と現在の地球		<p>(知) 地球型と木星型の特徴や太陽の概観・活動と地球への影響を理解する。</p> <p>(思) 太陽系の誕生を通して惑星の内部構造や現在の環境を考察することができる。</p> <p>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。</p>				
～2学期 期末考査	第2章 宇宙の誕生 1 宇宙の誕生		<p>(知) 星の基礎的な性質や銀河系の構造を理解する。</p> <p>(思) 銀河の分布と宇宙の誕生から膨張する姿について考察することができる。</p> <p>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。</p>				
～年度末	総合演習		<p>(知) 既習内容の発展的問題の演習を行い、地学基礎に対する理解を深める。</p> <p>(思) 既習内容の発展的問題の演習を行い、人類の存在について考察することができる。</p> <p>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。</p>				
使用教材 (教科書・副 教材)	教科書：「地学基礎」(数研出版) 資料集：「ニューステージ新訂地学図表」(浜島) 問題集：「地学基礎研究ノート」(博洋社)・「センサー地学基礎」(啓林館)・「チェック&演習」(数研)						
学習方法	授業・復習を中心に行う。授業は解説と問題演習を5：5で行う。問題演習を通して自らの課題を把握し、課題解決に向けて学習する態度を持ち授業に臨むこと。分からないところをそのままにせず、積極的に質問すること。定期的に小テストやレポートを課し、評価する。						
評価方法	(知) 考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (思) 考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (学) 考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割						

令和7年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目(単位数)	実践生物基礎(2)	学年	3	類型	文系
学習目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な、次のような資質・能力を育成する。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度 (4) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度						
評価基準	知識・技能	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	思考・判断・表現	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	主体的に学習に向かう態度	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
期間	単元(学習内容)		学習の到達目標				
～1学期 中間調査	【総合演習】 記述式		(知) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようとする。				
～1学期 期末調査			(思) 観察、実験などを行い、科学的に探究しようとする。				
～2学期 中間調査			(学) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けようとする。				
～2学期 期末調査	【総合演習】 マーク式		(知) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようとする。				
～3学期 学年末調査			(思) 観察、実験などを行い、科学的に探究しようとする。				
～年度末			(学) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けようとする。				
使用教材 (教科書・副 教材)	教科書：「生物基礎」(数研出版) 資料集：「新課程フォトサイエンス生物図録」(数研出版) 問題集：「ニューステップアップ生物基礎」(東京書籍) 「リードLightノート生物基礎」「チェック&演習 生物基礎」(数研出版) 「直前演習 生物基礎」(ラーズ・ベネッセ)						
学習方法	授業・復習を中心に行う。授業は解説と問題演習を5：5で行う。問題演習を通して自らの課題を把握し、課題解決に向けて学習する態度を持ち授業に臨むこと。分からないところをそのままにせず、積極的に質問すること。定期的に小テストやレポートを課し、評価する。						
評価方法	(知) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (思) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (学) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割						

教科	体育	科目（単位数）	体育（2）	学年	3	類型	全クラス
学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力の育成を目指す。						
評価基準	知識・技能	①定期考査（知識）②実技テスト（技能）					
	思考・判断・表現	①学習シート ②授業観察					
	主体的に学習に向かう態度	①授業観察 ②学習シート					
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標					
1 学期	体づくり運動 （ラジオ体操、青年体操）	【知】体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることを理解する。 【思】仲間との話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けること。 【態】体づくりの運動の学習に自主的に取り組もうとすること。					
	ダンス	【知】いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズムカルな全身運動をすることで、結果として体力を高めることができることを理解する。 【技】リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。 【思】作品創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け仲間に伝えること。 【態】ダンスの学習に自主的に取り組もうとすること。					
	水泳（複数泳法）	【知】水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることを理解する。 【技】手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり、速く泳いだりすることができる。 【思】合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。 【態】水泳の学習に自主的に取り組もうとすること。					
	球技	【知】技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 【技】ゴール型・・・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。 【技】ネット型・・・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防をすることができる。 【技】ベースボール型・・・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 【思】合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。 【態】球技の学習に自主的に取り組もうとすること。					
	体育理論	【知】運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害について理解する。					
2 学期	球技	【知】技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 【技】ゴール型・・・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。 【技】ネット型・・・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防をすることができる。 【技】ベースボール型・・・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 【思】合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。 【態】球技の学習に自主的に取り組もうとすること。					
	陸上競技 （長距離走）	【知】技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 【技】自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ったり、タイムを短縮したり、競争したりできる。 【思】動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 【態】陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。					
	体育理論	【知】スポーツの技術と技能及びその変化、運動やスポーツの技能の上達過程について理解する。					
3 学期	球技	【知】技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 【技】ゴール型・・・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。 【技】ネット型・・・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防をすることができる。 【技】ベースボール型・・・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 【思】合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。 【態】球技の学習に自主的に取り組もうとすること。					
	体育理論	【知】運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方を理解する。					
使用教材 （教科書、 副教材）	教科書：現代保健体育（大修館） 副教材：現代保健体育ノート（大修館）、アクティブスポーツ総合版（大修館）						
学習方法	運動やスポーツを楽しみながら、単元の目標に対する個人の課題やチームの課題を明確にし、その解決方法について話し合ったり練習計画を作成するなどして、仲間との実践の中で協力し活動していく。						
評価方法	○知識・技能・・・定期考査及び実技テストにより評価を行う。 ○思考・判断・表現・・・論述やレポートの作成、発表等。 ○主体的に学習に取り組む態度・・・行動観察やレポート等。						

令和7年度（2025年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	芸術	科目（単位数）	美術Ⅲ（2）	学年	3	類型	文系コース
評価基準	知識・技能	①レポート（知識）：約3割 ②作品（技能）：約7割					
	思考・判断・表現	①作品：約3割 ②レポート：約7割					
	主体的に学習に向かう態度	①作品：約9割 ②授業での状況：訳1割					
学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成すること。						
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標					
年度初～ 1学期 中間考査	・オリエンテーション ・風景画（油画）	(知) 自然や自己，社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成することができる (思) 価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができる (学) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み，生涯にわたり美術を愛好する心情を育む					
1学期中間 ～1学期	・校内の風景を描く	(知) 基本的な風景画の描き方を学ぶ力を身に付けている (思) 主題に応じて表現形式について考え，個性を生かして創造的に表すことができる (学) 他の作品を参考にして主体的に取り組んでいる					
2学期中間 ～期末考査	・風景画を完成させる。	(知) 基本的な風景画の描き方を学ぶ力を身に付けている (思) 主題に応じて表現形式について考え，個性豊かで創造的な表現の構想を練ることができる (学) 他の作品を参考にして主体的に取り組んでいる					
2学期期末 ～3学期 学年末考査	・工芸作品をつくる ・モビールをつくる ・まとめ	(知) 創作意欲を高める作品を鑑賞する中で表現力を養う。創造力・表現力・鑑賞力を見る。 (思) 工芸作品を制作する喜びを知る (学) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み，生涯にわたり美術を愛好する心情を育む					
使用教材 (教科書・副 教材)	美術3（光村図書）						
学習方法	個人またはグループワーク						
評価方法	作品提出、レポート、作業の進行、授業態度、技法、興味						

教科	英語	科目（単位数）	英語コミュニケーションⅢ （文系4・理系4）	学年	3	類型	全クラス
学習目標	外国語の習得を通して生徒の人的成長を手助けし、自他の言語や文化に対する関心を高める。 基礎・基本事項を大切に、確かな読解力・表現力を身につける。						
評価基準	知識・技能	①定期考査の知識・技能：6割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：1割					
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：1割					
	主体的に学習に向かう態度	①定期考査：4割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：3割					
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標					
1 学期	Lesson 1 : Incredible Edible	【知】地方創生のフードプロジェクトについて概要や詳細を理解できる。					
		【思】参加してみたいボランティアについて書くことができる。					
		【学】地域で人が集まるための案についてペアでやり取りすることができる。					
	Lesson 2 : Blood Is Blood	【知】血液の研究と差別撤廃に生涯をささげた黒人医師について概要や詳細を理解する。					
【思】文化的背景の異なる人々と強調して暮らすために重要だと思うことについて書くことができる。							
【学】人種問題についてペアでやり取りすることができる。							
Lesson 3 : Saving Our Treasures from the Sea	【知】世界遺産ベニスと厳島神社を支える科学技術について概要や詳細を理解することができる。						
	【思】未来の世代にどのような無形遺産を保存したいかについて書くことができる。						
	【学】近年の非常に強い雨が降る暮らしをする上で何ができるかについてグループで話し合うことができる。						
Lesson 4 : Men's Brains vs. Women's Brains	【知】「男女の脳の違いは本当にあるのか」について概要や詳細を理解することができる。						
	【思】ステレオタイプの要因やそれを克服する方法について書くことができる。						
	【学】一般的に普及している考えについてペアでやり取りすることができる。						
2 学期	Lesson 5 : Political Correctness	【知】差別や偏見のない中立的な用語の利点と問題点について概要や詳細を理解することができる。					
		【思】差別や偏見のない中立的な用語に関するスピーチを聞いて、どちらの意見に賛成・反対かについて書くことができる。					
		【学】ヘイトスピーチの禁止に対して、反対・支持者がどのように考える理由についてペアでやり取りすることができる。					
	Lesson 6 : Jose Mujica: The World's President	【知】「世界一貧しい大統領」と呼ばれたホセ・ムヒカについて概要や詳細を理解することができる。					
【思】今日の日本人が幸せかについて自分の考えを書くことができる。							
【学】ムヒカの考えについて同意するか、ペアでやり取りすることができる。							
Lesson 7 : Where Did Dogs Come from?	【知】「オオカミがどのように進化して犬が生まれたのか」を解き明かす研究の概要や詳細を理解することができる。						
	【思】もしペットにするならどのような動物や飼い主がよいかについて書くことができる。						
	【学】生き残るために適応したり、絶滅の危機に瀕したりしている動物についてグループで話し合うことができる。						
Lesson 8 : The Story of My Life	【知】ヘレン・ケラーがサリバン先生から教えられたことについて概要や詳細を理解することができる。						
	【思】愛とは何かについて書くことができる。						
	【学】アン・サリバンはどのような人かについてペアでやり取りすることができる。						
3 学期	Lesson 9 : Extinction of Languages	【知】文化や伝統そのものである言語絶滅の危機について概要や詳細を理解することができる。					
		【思】英語は少数言語にとって代わるべきかについて書くことができる。					
		【学】言語が絶滅の危機にある理由についてペアでやり取りすることができる。					
Lesson 10 : Light Pollution	【知】光害がもたらすさまざまな問題点について概要や詳細を理解することができる。						
	【思】明るい夜と暗い夜のどちらがより好ましいかについて書くことができる。						
	【学】夜を守るためにさまざまなところでできる行動についてグループで話し合うことができる。						
使用教材 （教科書・副教材）	教科書：「LANDMARK English CommunicationⅢ」（啓林館）、副教材：単語帳「Database4500」（桐原書店）、リスニング問題集「Hyper Listening」（桐原書店）、「Listening Coach」（いしづな書店）、参考書「総合英語be」（いしづな書店）						
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。週末課題の活用。						
評価方法	(知) 考査・授業時の観察（ノート・レポート等）・スピーキングテスト、ライティングテスト (思) 考査・授業時の観察（ノート・レポート）・ディスカッション、ディベート (学) 考査・授業での観察（ノート・レポート等）・ディスカッション、ディベート・スピーキングテスト、ライティングテスト						

教科	英語	科目（単位数）	論理表現Ⅲ（文系2・理系2）	学年	3	類型	全クラス
学習目標	外国語の習得を通して生徒の人的成長を手助けし、自他の言語や文化に対する関心を高める。確かな単語・文法力を身につけ、自らの考えを話したり、書いたりして相手に伝える力を養う。						
評価基準	知識・技能	①定期考査の知識・技能：6割 ②各課題・提出物：3割 ③パフォーマンステスト：1割					
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②各課題・提出物：3割 ④パフォーマンステスト：1割					
	主体的に学習に向かう態度	①定期考査：4割 ②各課題・提出物：3割 ④パフォーマンステスト：3割					
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標					
1 学期	L1 A City Worth Visiting 街を紹介する	【知】受動態の用法・意味を理解している。 【思】自分の住む街や地域を海外からの旅行者に紹介する英文を書くことができる。 【学】観光地の紹介に関する英文を読み、どこに一番行ってみたいか、どんなところに魅力を感じるかについてペアでやり取りすることができる。					
	L2 Our Hometowns 生まれ育った街について話す	【知】動詞の用法・意味を理解している。 【思】グラフやデータから読み取れる内容を分析し、架空の街（X Town）の問題について書くことができる。 【学】街の問題点に関する英文を読み、直面している課題と、どのように解決しようとしているかについてペアで話し合うことができる。					
	L3 What Makes a City Attractive? 魅力ある街づくりの提案	【知】助動詞の用法・意味を理解している。 【思】自分の住む街や地域の問題点を明らかにして、解決に向けての具体的な提案とそれがもたらす効果について英文の提案書を書くことができる。 【学】魅力ある街づくりについてのプレゼンテーションを読み、情報を整理して、住民がどんなことを望んでいるかについてペアで話し合うことができる。					
	L4 How Do You Spend Your Time? 時間の過ごし方	【知】比較級の用法・意味を理解している。 【思】自分の「ひとり時間の過ごし方」についてまとめた分量の英文を書くことができる。 【学】ひとり時間の過ごし方に関する英文やグラフ、高校生のインターネット利用時間に関するグラフをもとに、時間の使い方の問題点を挙げ、その解決方法についてペアで話し合うことができる。					
	L5 Trying Something New スポーツを始める	【知】比較級（差の程度）の用法・意味を理解している。 【思】スポーツについての英文を読み、2つスポーツを比べ、違いや共通点に触れながらコメントを書くことができる。 【学】興味のあるスポーツやあまり知られていないスポーツについて調べ、特徴やルールなどを挙げながらペアになって相手に説明できる。					
	L6 The Art of Translation 翻訳が伝えるもの	【知】副詞と形容詞の用法・意味を理解している。 【思】好きな本や映画について、印象的な文やシーン、その本や映画を選んだ理由を挙げながら書くことができる。 【学】映画の翻訳についてのスピーチを読み、概要や結論の部分で述べられていることについてペアでやり取りすることができる。					
2 学期	L7 Combatting Climate Change 気候変動について考える	【知】受動態の用法・意味を理解している。 【思】気候変動についての原因と、気候変動の結果起こりうること、解決策について論理だてて書くことができる。 【学】環境への意識調査に関する英文やグラフをもとに、環境保護のためにすべきことについてペアでやり取りすることができる。					
	L8 Future Energy Sources これからのエネルギー源	【知】関係代名詞の用法・意味を理解している。 【思】推進したい再生可能エネルギーの利点、欠点の解決策について意見を書くことができる。 【学】再生可能エネルギーや洋上風力発電に関する英文やグラフをもとに、今後日本は洋上風力発電を増やすべきかについてペアで話し合うことができる。					
	L9 Discussing the Environment 環境問題について話し合う	【知】不定詞（形容詞用法）の用法・意味を理解している。 【思】現在の環境問題に何も対策しなかった場合の20年後について予測したことを書くことができる。 【学】現代の環境問題の中から1つ選び、解決のために今の私たちができることについてグループで話し合うことができる。					
	L10 Globalization and Immigration グローバル化のためにできること	【知】不定詞（名詞用法）の用法・意味を理解している。 【思】日本は今後外国人労働者の受け入れについてどうすべきか、具体的な理由や根拠とともに意見を書くことができる。 【学】外国人労働者の受け入れに関する英文やグラフをもとに、外国人のいる職場で将来自分が働くとしたら、お互いを尊重するためにどんなことが必要だと思うか、ペアで話し合うことができる。					
3 学期	L11 What is Fair Trade? フェアトレード	【知】動名詞の用法・意味を理解している。 【思】日本人はもっとフェアトレード商品を買うべきかについて、自分の意見とその理由や根拠を示して論理だてて書くことができる。 【学】フェアトレードに関するグラフや英文をもとに、フェアトレードが提唱された背景についてペアでやり取りすることができる。					
	L12 Helping to Fight Poverty 貧困のない世界へ	【知】不定詞（副詞用法）の用法・意味を理解している。 【思】世界をよりよくするためにどのような国際協力が必要かについて、意見を書くことができる。 【学】子どもの貧困に関するプレゼンテーションをもとに、どのような解決策があるかについてペアで話し合うことができる。					
使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「be Logic and Expression III Clear」（いいずな書店）、副教材：参考書「総合英語 be」（いいずな書店）、文法・語法「Engage」（いいずな書店）、UPLIFT英文文入試基本（Z会）、Steady Steps to Writing」（数研出版）、システム英作文（桐原書店）						
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。週末課題の活用。						
評価方法	(知) 考査・授業時の観察（ノート・レポート等）・スピーキングテスト、ライティングテスト (思) 考査・授業時の観察（ノート・レポート等）・ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、スピーキングテスト、ライティングテスト (学) 考査・授業での観察（ノート・レポート等）・ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、スピーキングテスト、ライティングテスト						

熊本県立人吉高等学校 「総合的な探究の時間」 3年次（案）

学年	3年								
テーマ	未来と自己		到達目標	学習内容（学習教材等）	活動場所	知技	思判表	主体	
4月	1	振り返り	2年次作成の志望理由書をもとにした面談	2年次作成の志望理由書や研究要綱をもとに担任や副担任と協力しながら志望理由書の原案を考えることができる。	ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	2	振り返り	2年次作成の志望理由書をもとにした面談	2年次作成の志望理由書や研究要綱をもとに担任や副担任と協力しながら志望理由書の原案を考えることができる。	ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	3	講話	志望理由書の書き方講座（外部講師）	外部講師の志望理由書の書き方を参考に適切な志望理由書に関する知識・技能を確認する。	ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
5月	4	進路探究	志望理由書		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	5	進路探究	志望理由書		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
6月	6	進路探究	志望理由書		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	7	進路探究	志望理由書		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	8	進路探究	志望理由書		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
7月	9	進路探究	志望理由書完成		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	10	進路探究	志望理由書完成予備		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
9月	11	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	12	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	13	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	14	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
10月	15	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	16	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	17	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	18	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
11月	19	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	20	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
12月	21	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○
	22	進路探究	学年・担任（副担任）裁量		ワークシート等・クロームブック	各教室	○	○	○